学校運営協議会　会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第８条第１項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

１　会 議 名　　多治見北高等学校　学校運営協議会　　（第３回）

２　開催日時　　令和５年２月６日（月）　１３：００～１５：００

３　開催場所　　多治見北高等学校小会議室

４　参 加 者

会　　長	小林　雄一	愛知工業大学教授
副 会 長	水野　知久	東濃子ども相談センター所長
委　　員	長壁　和恵	会社員　元ＰＴＡ役員
	加藤　恵子	消費生活協同組合理事　元ＰＴＡ役員
	加藤　真佐美	ＰＴＡ副会長
	近藤　重利	地域住民　自営業者
学 校 側	白石　秀史	校長
	山下　サツキ	事務部長
	西田　智子	教頭
	市川　学	教務主任
	岩三　大介	生徒指導主事
	前川　泰信	進路指導主事

５　会議の概要（協議事項）

（１）校長挨拶
（２）授業見学
（３）今年度の反省
（４）ふるさと教育について
（５）意見交換及び協議

意見１：生徒たちはコロナ禍の中でこれまでにない体験をしたが、生き生きと活動することができていた。今の生徒はＩＣＴ機器を活用して情報を調べたりする環境が整っている。教職員は情報化への対応に追われたと思うが、工夫して実践されている。進路指導については、大学入試の方法についてさまざまな変更があり、対応に苦慮したと思う。

意見２：生徒への愛情が伝わる会議だった。これからも学校行事など生徒のやりたいことを大切にしてもらえるとよい。タブレット端末について修理費の負担の問題があると思うが、生徒の心の傷にならないように対応してほしい。

意見３：挨拶についての生徒指導の話があったが、高校で正しい入室のマナーなどを伝えることで、社会に出たときにそれが生かされていく。

意見４：ふるさと教育について、乗鞍フィールドワークや図書館講座といった充実した活動が、ＦＲＨ事業として生徒の負担なく実施できているのはありがたい。

意見５：１年生の観点別評価についてはこれまでとはだいぶ変更されており大変だと思った。校内模擬国連のような生徒発信の取組があることに感銘をうけた。職場においても発信力のある人間、自分の頭で考えて行動できる人間が求められている。

意見６：ＦＲＨ事業の取組は地元にこういう所があるのだということがよくわかり、大変よいと思った。

意見７：卒業後もチーム多北のつながりを感じる。同級生同士で意見を聞き合ったり先輩にお世話になったりしている。挨拶については、知らない人には挨拶をしない時代になっており、教員が声をかけても返ってこないこともある。しかし、社会に出てからは必要なことなので、声をかけていくことが生徒たちの栄養になる。

意見８：緊急事態宣言下で卒業した生徒は、大学進学後も授業はZoomで行われており、大学生活自体がない。行動制限等がなくなったら、高校に来られる子だけでもやり残したことをやれるような機会を作ってもらえるとよいと思う。

意見９：進学情報について、塾に行ってないと格差が出るように思う。大学が教科「情報」についてどう扱うのかもいろいろで、情報を追うのが大変である。生徒たちが安心して過ごせるように学校の雰囲気を明るくすることが大切だ。

意見10：悩みのある子に対して教員が対応するのは大変である。カウンセラーは常駐しているのか。

⇒県が採用したスクールカウンセラーが年間１０回２時間来校することになっている。必要性のある場合はスペシャルサポートの制度を活用して来校回数を増やしているが、足りないくらいである。

６　会議のまとめ

コロナ禍の中ではあったが、学校行事が戻りつつある。１年間を振り返ると学校祭を見ることができ、生徒の生き生きした姿、工夫を凝らした姿を見ることができたのはよかった。教職員が「生徒が困らないように」「生徒が不利にならないように」と生徒のことをよく考えて取り組んでいることがわかった。これからも応援団としてこの会議が機能するようにしていく。